



認知症家族教室



6月18日に第30回認知症家族教室を開催しました。

今回は精神科医の井上Drから「せん妄」について、薬剤師の中村から「認知症のお薬について」お話をさせて頂き、10名のご家族にご参加頂きました。

はじめに井上Drからは、「せん妄とは、短期間のうちに出現し、日内変動を伴う意識障害、一時的な混乱状態であり、基本的には認知症と異なるが、認知症の行動心理症状の一つとして出現することもあるので、区別が必要です。」という説明があり「せん妄の種類として、夜間せん妄や術後せん妄、薬剤性せん妄、アルコール離脱せん妄などがあり、原因別に要因を取り除いていくことが大切である。」という話がありました。

次に中村薬剤師からは、主に4種類の抗認知症薬についての特徴や使い方の違いについて伝えさせて頂きました。

抗認知症薬は、中核症状の進行抑制には効果が期待できるが、吐き気やめまいなどの副作用もみられる為、様子をみながら段階的に用量を増やしていく必要があり、行動心理症状に対するお薬は、向精神病薬を使用することが多く、作用、副作用も千差万別な為、服用開始前後の状態をしっかりとチェックしておくことが大切であると伝えさせて頂きました。

参加されたご家族からは、「認知症とせん妄の違いやお薬の詳しい説明を聞いたことで、認知症についてより理解ができた」という声や、「家族もどのような症状に対して、どの薬を服用しているのか理解しながら寄り添っていくことも大切なことに気付きました」というような声が聞かれました。

来月からは、家族教室後、個別相談の時間を設けることになりました。講義を聞いて頂くだけではなく、患者さんの状態に合わせたアドバイスや補足説明を行い、実際の退院後の介護に活かして頂けるように、家族教室をより充実した内容にしていければと考えております。